

横浜IRの方向性について御意見を御記入ください。

御意見の記入欄

～御協力ありがとうございました～

キリトリX

横浜IRの方向性4

安全・安心対策の横浜モデルの構築

治安対策などの懸念事項への取組

【治安対策】

- ▶ 警察との連携
- ▶ 区域内外の防犯カメラ設置
- ▶ 警備スタッフの配置・巡回

【反社会的勢力の関与への対策】

- ▶ 徹底的な調査による排除
- ▶ カジノ入場規制

【青少年への悪影響対策】

- ▶ マイナンバーカードによる入場規制・夜間巡回の実施

【マネー・ロンダリング（犯罪資金洗浄）対策】

- ▶ 一定額以上を換金した際の届出
- ▶ カジノのチップ持ち出し、譲渡禁止
- ▶ 顧客の本人確認の徹底

横浜市の依存症対策への取組

これまで国が示す依存症対策総合支援事業やアルコール健康障害対策基本法、ギャンブル等依存症対策基本法等に基づき事業を進めていますが、さらに、横浜市では依存症の方を増やさないように次の4つの対策を徹底して進めていきます。

【市の総合的な依存症対策】

- ① 依存症への総合的な取組
- ② 予防教育の実施（高校保健体育における啓発など）
- ③ 事業者や研究・専門機関との研究
- ④ 調査による実態把握（令和元年度3,000人対象）

【IR整備法関連】

- ▶ 日本人等への7日間で3回、28日間で10回の上場制限
- ▶ 広告・勧誘の制限やカジノ内ATM設置禁止など施設内制限
- ▶ 本人・家族の申告による入場制限
- ▶ 日本人等への24時間毎に6,000円の入場料

【事業者独自の依存症対策】

- ▶ 顔認証やAI等による入場制限・モニタリング
- ▶ 訓練された従業員の巡回、声掛け

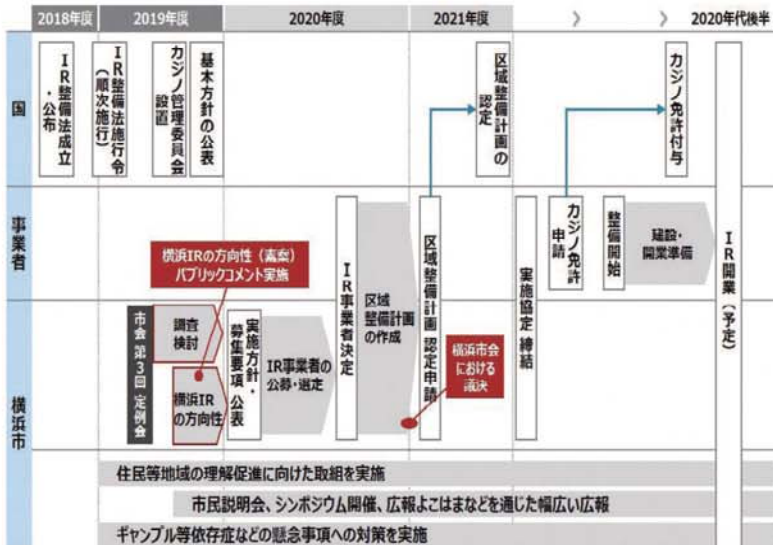
市民説明とスケジュール

※ 下表は2020年3月時点の見込みです

市民説明会
(令和2年度以降)
シンポジウム開催
「広報よこはま」などを
通じた幅広い広報

IRに関する説明や広報

- ▶ 様々な機会をとらえ、IRに関する情報を市民の方々へ発信します。
- ▶ 世代や生活環境など、それぞれのステージ、関心や問題意識に応じて広報します。



スケジュール

- 令和2年3月6日～4月6日
パブリックコメント実施期間
- 令和2年6月頃
パブリックコメントの実施結果公表、
横浜IR（統合型リゾート）の方向性策定・公表

● 素案の全体版 はこちらから御覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/IR/houkousei.html>

横浜 IR パブコム 検索

● 素案の全体版 は次の場所でも閲覧できます。

- 市民情報センター（市庁舎1階）
- 各区役所区政推進課広報相談係
- 都市整備局IR推進課

横浜IRの方向性(素案)

(統合型リゾート)

概要版

全体版 はこちらで！

横浜 IR パブコム 検索

皆様の御意見を募集します (当日消印有効)

パブリックコメント実施期間 令和2年3月6日(金)～4月6日(月)

基本コンセプト

横浜イノベーションIR

『横浜を世界から選ばれるデスティネーション(目的地)へ』



異人高層での交流
(C) Photo by Hideo MORI



みなとみらい21地区

※ 都心臨海部：「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」に位置づけられた横浜駅周辺地区、みなとみらい21地区、関内・関外地区、山下ふ頭周辺地区、東神奈川臨海部周辺地区を含む地区の総称です。

1859年の開港を機に、海外諸国との交易の中心となった横浜は、世界中から集まる人・モノ・情報・文化であふれ、文明開化の名の元に、近代日本の成長をけん引する国際的な港湾都市として、目覚ましい発展を遂げてきました。

その後の震災や戦災、東京一極集中の人口急増など横浜の5重苦と言われた困難な状況においても、個性ある自立都市を目指す熱意と気概を持ち、六大事業に着手し、みなとみらい21をはじめとする事業を着実に進め、人口374万人、最大の基礎自治体として、日本有数の経済都市に成長してきました。

今後、横浜においても人口減少、超高齢社会等、様々な社会経済情勢の変化が見込まれます。そうした中でも、市民が生き生きと暮らし、魅力と活力あふれる都市であり続けるため、横浜は今ある「横浜らしさ」に誇りを持ちながら、新しい文化を迎え入れ、将来を見据えた新たな「横浜らしさ」の創造に向けてチャレンジする必要があります。

現在、横浜は開港からの異国情緒の残る山下公園、元町、中華街や、若者に人気のみなとみらい21地区など、日本有数の観光地として多くの人で賑わっています。また、パシフィック横浜では、多くの国際会議などが開かれ、「グローバルMICE都市」としての地位を築いてきました。

基本コンセプト

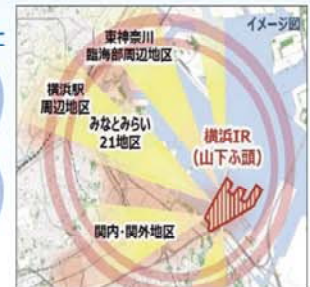
『横浜IR』では、世界水準のMICE施設、ホテル、エンターテインメントや最先端のテクノロジー(技術)を駆使した未来の街を、これまで築き上げてきた都心臨海部の街の魅力や資源と一体的に整備し、融合していくことで、相乗効果を最大限に発揮するとともに、新たな魅力・資源をハイブリッド(混成)に創造し、横浜の観光・経済にイノベーション(革新)をもたらしていきます。

そして、横浜都心臨海部がこれからも、横浜市民の憩いの場であるとともに、世界各国の人々が、日本に行ってみよう!日本に行くなら横浜に行ってみよう!そう思ってもらえる『横浜イノベーションIR』を目指していきます。

横浜のさらなる飛躍と
将来にわたる市民の豊かな暮らしのために

基本コンセプトを実現する方向性

- 方向性1 世界最高水準のIRを実現
- 方向性2 都心臨海部との融合
- 方向性3 オール横浜で観光・経済にイノベーションを
- 方向性4 安全・安心対策の横浜モデルの構築



231-8790

017

サンプル

〈受取人〉

横浜市中区港町1-1
横浜市都市整備局IR推進課
横浜IRの方向性(案案)
パブリックコメント 担当 行

キリトリ線

氏名	
住所	〒 -
年齢	(○をつけてください) 20歳未満 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80歳以上 任意回答
性別	(○をつけてください) 男性 女性 任意回答

キリトリ線

パブリックコメントに関する注意事項

- いただいた御意見については、御意見の概要とそれに対する横浜市の考え方を取りまとめ、後日公表します。
- いただいた御意見は、横浜IR(統合型リゾート)の方向性の策定に関して参考とさせていただきます。
- 個別の回答はいたしませんので、あらかじめ御了承ください。
- 御意見の提出に伴い取得した氏名、住所等の個人情報は、「横浜市個人情報の保護に関する条例」の規定に従い適正に管理し、御意見の内容に不明な点があった場合等の連絡・確認の目的に限って利用します。

提出方法

提出にあたっては、氏名、住所、年代(20歳未満、20代~70代、80歳以上)、性別、御意見を記載してください。

①郵送

上のハガキを御利用ください
切手不要 令和2年4月6日(月)消印有効

②FAX

045-313-9936

③Eメール

yokohamair_ikenbosyuu@sic-kk.co.jp

お問合せ先

パブリックコメントに関すること

横浜市都市整備局IR推進課
TEL 045-671-4135
平日(土日祝日を除く)午前9時~午後5時まで

横浜IRの方向性2

都心臨海部との融合

- 最先端のテクノロジー(技術)を駆使した新しい街のモデル『横浜IR』を、都心臨海部の既存の街の魅力や資源と一体的に整備し、融合していきます。
- 21世紀の日本における新たな開港の地として世界各国の人々を迎え入れ、もてなす、世界から選ばれるデスティネーション(目的地)に相応しい魅力的な都市づくりを進めます。

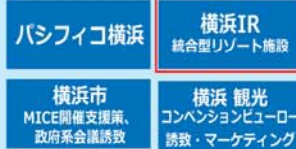
施設整備の視点



SDGs
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



世界中から観光客・会議参加者等を誘客



観光事業者 交通事業者 MICE事業者 宿泊事業者 関連事業者 (イベント主催者)

オール横浜での観光MICE推進体制



横浜IRの方向性3

オール横浜で観光・経済にイノベーションを!

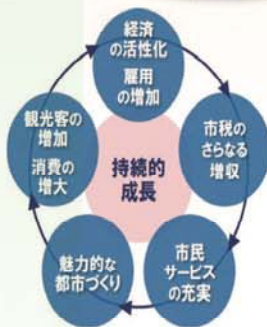
まちづくりのコンセプト

- 『横浜IR』を都心臨海部と一体的に整備し、融合
- 21世紀を象徴するような新しい横浜の都市デザイン・景観形成
- 最先端技術を駆使したスマートシティ、環境、防災、ユニバーサルデザインなど『未来の街のショーケース』

将来にわたる

市民の豊かな暮らし

福祉 子育て 医療 教育



魅力ある都市/横浜のさらなる飛躍

- 観光客増・MICE参加者増(増泊者増)
- IR利用者が市内・県内を周遊
コンシェルジュが観光、体験、買い物コーディネート
- 周辺地域の既存の魅力や資源を磨き上げ
相乗効果によって賑わいUP
- 長期滞在によって観光消費額UP
- 広がる経済効果
ビジネスチャンス拡大、新産業創出、雇用機会の増等
- 観光客の満足度向上に向けた再投資
施設、サービス
- 魅力向上によるさらなる観光客増
リピーターの増

- 世界最高水準のスケールとクオリティを有する『横浜IR』と、これまでつくり上げてきた都市としての魅力や資源を融合し、世界の観光・MICE都市、文化芸術創造都市としての横浜の新たな魅力や資源を創造するとともに、その相乗効果により、横浜の観光・経済にイノベーション(革新)をもたらして、横浜を世界から選ばれるデスティネーション(目的地)へと導いていきます。
- また、その効果を都心臨海部はもとより、横浜全域全体、さらには日本各地に広げていきます。

横浜IRの方向性1

世界最高水準のIRを実現

- ビジネスからレジャーまで、大人から子どもまで、外国人でも日本人でも、幅広い客層が楽しめる非日常的で印象的な空間を有する都市型リゾートを目指し、世界の人々が日本に行ってみよう!日本に行くなら横浜に行ってみよう!と思われる世界最高水準のIRを実現します。
- 周辺地域との一体的な観光振興により、『横浜IR』から市内・県内はもとより日本各地の魅力を発信し、送客することができる日本のゲートウェイ(玄関口)を目指します。

MICE (国際会議場・展示場)

我が国において、これまでにないような国際的な会議や世界規模の産業見本市等を展開。新たなビジネスの起爆剤として、経済・観光にイノベーション(革新)を創出。



多彩なホテル群

国際競争力のある広さ、設備、サービスなど、ビジネス客やファミリー、富裕層など来訪者の宿泊需要に適切に対応できる規模・クオリティを有する。5つ星ホテルのほかファミリー層も宿泊できる複数のホテルを備える。



レストラン・ショッピングモール



民設・民営一体的な整備・運営

エンターテインメント施設



魅力増進施設

日本の伝統、文化、芸術、最先端技術、四季折々の自然等の様々な魅力がかつてないクオリティで発信。世界中の観光客を惹きつけ、リピーターを確保することができる国際的に最高水準のエンターテインメント性のある公演、展示等を提供するとともに、これを通じてまた、アニメやゲームなど日本の魅力を体験してもらう機会を創出。



カジノ

IR関連法令等に則した施設とし、ファミリー層等の主動線とは分離された適切な配置計画やデザインとする。



送客施設

東日本をはじめとした日本各地の観光名所にインパウンドを送り出す日本の拠点・ゲートウェイ(玄関口)として、また世界と国内各地をつなぐ交流のハブとして、国内各地の魅力やショーケースとして紹介、各交通機関を結びバスや、ワールドクラスのクルーズポートを生かした「ターミナル機能」を備える。



横浜IR実現への取組の背景

(1)現状と課題

本市は、人口減少社会への転換期を迎え、超高齢社会が進展し、生産年齢人口の減少や老年人口の増加による消費や税収の減少など、経済活力の低下や厳しい財政状況が見込まれています。

(2)横浜観光 MICE の現状

過去5年間の訪日外国人の延べ宿泊者数の伸び率は、全国平均で2.4倍、東京都は2.0倍に対し、本市は、1.7倍に留まっています。
横浜市は過去5年間の平均で、約8割以上が日帰り観光客であり、宿泊客が少ない状況です。

(3)将来を見据えた横浜市の取組

将来にわたる市民の方々の豊かな暮らしを維持していくために、戦略的な企業誘致、市内中小企業振興、商店街活性化、SDGs未来都市、災害に強い都市づくりなど、様々な事業に取り組んでいます。これらの施策の一つがIRです。

